



導入した接穂 参加農家に配布されました。



専門家による接ぎ木技術指導



陝西省寧陝県人民政府門戸でも本活動が広く紹介されました。HPのアドレスは以下です。
http://www.ningshan.gov.cn/2009/E_ReadNews.asp?NewsID=7724

GPS 研修の実施

2011年3月6日、陝西省西安市 JICA 専門家執務室内および付近の道路上において、GPS 研修を実施した。この研修により放鳥されたトキの巣場所、採食場所、ねぐら場所などの正確な場所の把握に役立ち、保護事業の推進が期待されます。



(真剣に GPS のソフトを勉強している様子)



(室外で GPS の実践)

順化ケージの補修

洋県朱鷺救護飼養センターは1990年に創設され、現在、約150羽のトキが飼育されています。2000年には、日本の支援で高さ35m、面積5300㎡の大ケージが建設され、野生復帰の順化飼育に使用されてきましたが、老朽化が進み、ネット

からトキが逃げ出す等、安全な飼育ができない状態になっていました。このため、プロジェクトでナイロンネット、ワイヤーケーブル、塗料、モニタリング機材等の必要な補修資材を提供、労務費は自然保護区当局で負担という連携で補修工事を実施し、3月末に完成しました。

順化ケージの補修は自然保護区関係者の長い間の懸案でした。今回、プロジェクトとの連携で補修が実現したことは、地元でも高く評価され、洋県郵便局からトキ保護 30 周年記念して発行されたシリーズ切手の題材にも取り上げられました。今回の整備により、トキのふるさとの拠点施設として、飼養センターがその役割を今後とも十分に発揮していくことが期待されます。



洋県朱鷲救護飼養センター（正面 洋県朱鷲生態梨園から） 補修が完了した朱鷲救護飼養センター順化ケージ

JICA の協力による順化ケージの補修事業は陝西省のマスコミでも広く紹介されました。

中国・洋県人民政府

<http://www.yangxian.gov.cn/xwxxDetail.asp?id=3143>

人民網・陝西ニュース(動画)

<http://tv.people.com.cn/GB/150716/162500/162501/14209987.html>

陝西電視台

http://www.sxtvs.com/content/2011-03/24/content_4326793.htm

東日本大地震へ義援金

2011年3月11日に日本で発生した大震災に際し、中国側カウンターパート陝西省林業局、洋県保護区、寧陝県林業局、河南省董寨保護区の職員たちから温かい励ましのお言葉や義捐金を頂きました。



洋県保護区全職員からの義援金をいただく様子

ピックアップトラックの引き渡し式

2011年3月25日、西安にて三つのモデルサイトにそれぞれ1台のピックアップトラック(計3台)の引渡し式を行いました。今後5年間の活動の中で、トキのモニタリング活動やトキの保護などで有効に使用される予定です。

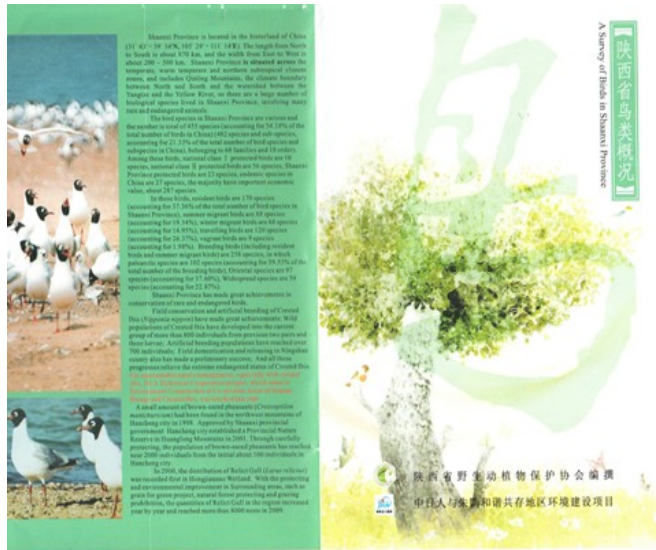


住民向けカレンダー及び西安園芸博覧会向けパンフレットの作成

プロジェクト宣伝及び認知度の向上を図るため、洋県にて1万部、寧陝県にて1万部のカレンダーを作成しました。また、西安園芸博覧会の参加者へ配布するためにパンフレットを1万部作成して配布予定です。



トキ生息地の住民へ配布したカレンダー



西安園芸博覧会にてパンフレットの配布

今後の主な予定

- 5月8日、プロジェクト開始記念切手の発行
- 5月23日～25日の3日間で、トキ再発見30周年セミナーを開催。

Xian Cool ～盛大な西安世界園芸博覧会、開幕～



2011年4月28日午前、長安古韻のある短い歌舞パフォーマンスを伴い、西安世界園芸博覧会が正式に開園しました。世界園芸博覧会は1960年から始まり、世界の各地を回って、今年ようやく西安にめぐってきました。

今度の主題は「天人長安・創意自然—都市と自然の調和的共存」で、その中で「天」は自然を指し、「人」は都市を指し、「長安」は古都西安のことを指しています。「創意自然」とは自然を保護する前提で、自然を利用して人類の福祉を向上させていくことです。ここから西安の都市の発展に対する良好な期待が感じられます。

世界園芸博覧会はとてとても広いです。どこに行くにも、すぐに道に迷っちゃいます。そんな時、黄色の帽子をかぶっているボランティアがきっと現れます。ボランティアたちは熱心に入園した観光客を案内してくれて助かります。

世界園芸博覧会の全体構造は「二つの環、二つの軸、5組のブロック」です。その中の「二つの環」は主環とサブ環を指します。主環は核心展覧区で、主に室外展示園と園芸観光スポットがあり、サブ環は拡大区で、世界園芸博覧会村、管理センターなどのサービス関連施設があります。「二つの軸」は園区内の二つの景観軸で、南北軸が主軸で、東西軸がサブ軸です。「5組のブロック」はそれぞれ長安園、創意園、五洲園、科技园と体験園です。四つのランドマーク建築は長安塔、創意館、自然館と広運門で、五つのテーマパークの園芸スポットは長安の花谷、カラーの終南、シルクロードの花の雨、海外風景、瀾の上の虹で、三つの特別なサービスエリアは瀾の上の民家、南方風景、ヨーロッパ風景です。世界園芸博覧会はとても広いので、園内には観光車があります。そして、自転車を借りるところもあります。

世界園芸博覧会にはいろいろな館があります、でも私自身にとっては一番印象に残ったのはやはり秦嶺四宝館です。今回の博覧会のために、陝西省の希少動物救護飼育センターはわざわざパンダ(7頭)、トキ(20羽)、キンシコウ(10匹)、ターキン(5頭)を秦嶺の使者としてここに派遣しました(秦嶺は中国でも有数の美しい森林を有するところで、パンダ、トキ、キンシコウ、ターキンなどの珍しい野生生物が生息しています)。大きな四宝館の中は、自然の樹木や石などで自然環境が再現されていて、そこにいる動物たちを見ていると、悩みやストレスを全部忘れていく気がします。特に、トキが自由自在に飛んでいる姿を見ると、忘れてしまった自分をもう一度見つけたような感じも沸いてきます。秦嶺からの使者はきっといい思い出に残ります。

みなさん、世界園芸博覧会をぜひ見に来てください。

(プロジェクト西安事務所スタッフ 周霞)

編集後記:

日本の小説家、故・司馬遼太郎さんは「中国は必ずや緑の大地に戻る」とその著書で述べました。私は中国に3年半ぶりに赴任して、余りにも早い発展の速度に驚きながらも、自然保護や植林の充実にも目覚ましい成果を感じております。これからプロジェクト活動を通じてこの目で実際にみた中国の自然環境の様子をご紹介します。

「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」は2010年9月に開始し、2011年4月には日本人専門家執務室内に「トキ情報コーナ」を設置し、トキに関する情報及び簡単な資料を提供しています。トキの他にも陝西省にはパンダ、キンシコウをはじめとして豊かな自然環境が残されており、トキを含めた全般的な自然環境についてもご紹介する予定です。現地出張に頻繁にでかけておりますので、西安事務所「トキ情報コーナ」を訪問されたい方はぜひ事前にご連絡ください。たくさんの方の興味のある方の訪問をお待ちしております!!!

--平野

大学の二年生の時、洋県へ行き、日本人の友人たちと一緒に朱鷺を見ました。その時、朱鷺が空で飛んでいる姿がとても美しかったです。心を奪われてしまいました。4年ぶりに、JICA「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」西安事務所に入って朱鷺にこんなに近づくことができ、まさに運命のような感じがします。私は新人なので、勉強することがいろいろあると感じています。これからよろしくお願ひします。私はみんなと頑張ります。

--周霞

プロジェクト所在地

〒710082 西安市蓮湖区労働南路 296 号民航大厦 14F

T E L / F A X: +86-(0)29-88793312

U R L: http://www.jica.go.jp/project/area/asia/033_1.html E-mail: toki.information@gmail.com

担 当:

日本側担当者 平野 貴寛

中国側担当者 周 霞